

幼児期における他者の知識状態に応じたルール違反への反応と ルールの共有

— 社会的ふり遊びの観察から —

熊木 悠人

問題

幼児が行う遊びの一つにふり遊びがある。ふり遊びは、社会的参照や他者の意図理解などの多くの社会的能力の発達と密接に関連する (Lillard, Ashley, & Smith, 2010)。他者と共同で行うふり遊びをごっこ遊び、または「社会的ふり遊び」と言う。社会的ふり遊びでは、遊び相手とルールを共有する必要がある。例えば、泥を丸めたものをだんごであると決めたら、その遊びの中ではだんごとして扱う必要がある。ルールを無視して泥として扱ったり、泥でもだんごでもない別のものとして扱ったりしたら、社会的ふり遊びは成立しない。3 歳以降の幼児は、ふり遊び内のルールを現実とは異なるふり遊びの中だけのルールとして理解している (Wyman, Rakoczy, & Tomasello, 2009a)。

Rakoczy (2008) は、ルールに違反した遊び参加者に対する反応を指標として、2-3 歳児の社会的ふり遊びでのルールの理解について検討した。まず 2 人の実験者と参加児の 3 人が一緒に遊び、途中、実験者の一人が外に出た。その間に、もう一方の実験者がブロックをナイフとニンジンに見立てるふり遊びを参加児とはじめた。そこに外へ出ていた実験者が戻り、ナイフに見立てたほうのブロックを食べるふりを見せた。その結果、3 歳児ではルール違反に抗議する反応が見られた。一方、戻ってきた実験者が、ナイフに見立てられたブロックをナイフとして扱った場合には、抗議の反応は見られなかった。Rakoczy, Warneken and Tomasello (2008) や Rakoczy, Brosche, Warneken and Tomasello (2009) は、同様の方法を用いてふり遊びではなく、特定のやり方に従ってボールを穴の中に入れるといったゲーム遊びにおいても 3 歳児のルールの理解を検討した。その結果、ゲーム遊びにおいても同様の結果が得られた。また、Casler, Terziyan and Green (2009) は、2-3 歳児の道具の使用法の理解について同様の実験を行い、やはり 3 歳児で抗議の反応が見られることを示した。これらの研究は、3 歳児に達するとルールに従うだけにとどまらず、第三者に対してルールを遵守させようとすることを示している。

しかし、ゲーム遊びと社会的ふり遊びでは、そのルールの在り方は大きく異なる。ゲーム遊びでは、従うべきルールはあらかじめ外的に決められており、遊びが行われる時点でルールが共有されていることが前提となっている。それに対し、社会的ふり遊びでは、ルールはあらかじめ決められているわけではない。そのため、遊び相手とルールを共有できているかという点

に敏感になり、他者との相互作用の中で、ときに話し合ったりしながらルールを構築していくというプロセスが必要になる。社会的ふり遊びが成立するには、ルールを共有できるよう積極的に働きかける必要がある。実際、子どもは社会的ふり遊びの途中、ふりを中断してルールについて話し合うことがあり (Howe, Petrakos, Rinalidi, & LeFebvre, 2005), 年齢が上がるに従い、話し合いに当てられる時間割合は多くなる (Lillard et al., 2010)。

ふり遊びにおいて他者と円滑にルールの共有を行うためには、他者のふりが他者の心的状態を反映しているものであると理解する必要がある。幼児が他者のふりを観察したときに、その背後の他者の心的状態をどのように理解するかについて、これまで研究が蓄積されている。Lillard (1993) は、カンガルーを知らない他者がカンガルーのように跳ねる場面を見せ、ふりであるかどうかを問う実験によって、幼児がふり行為の背後にある他者の心的状態を理解しているか調べた。その結果、6歳になる前の幼児は他者のふりを「如き行為 (behaving as if)」としてみ解釈し、心的状態とは理解していないことを示した。Lillard (1993) のパラダイムをもとにしたその後の研究で、ふり行為の背後にある他者の心的状態を理解しはじめるのは、5歳ころからであることが示唆されている (杉本, 2008)。

他者とルールを共有する必要がある社会的ふり遊びにおいては、他者のふり行為の背後にある心的状態を理解する必要がある。生後 30 ヶ月以前の幼児には、単独でのふり遊びおよびふり遊びでない社会的遊びは行うにも関わらず、社会的ふり遊びを行わない児が多い (Howes, 1985)。これは、社会的ふり遊びにおいて必要となるふり行為の背後にある他者の心的状態の理解がいまだ十分でないためであると考えられる。3歳児は、ルール違反した他者に対して様々な場面で一様に抗議するという反応を示す (Rakoczy, 2008; Rakoczy et al., 2008; Rakoczy et al., 2009; Wyman et al., 2009a, 2009b)。ふり遊び場面での検討を行った Rakoczy (2008) は、「抗議」の他に「正しいルールを説明する」反応を分析のカテゴリーの一つとしたが、この反応に分類された児はわずかであった。この結果は、以下のように解釈できるのではないだろうか。Rakoczy らは、ルールを共有していない他者がルール違反をする場面を設定した。他者がルールを共有していないためにルール違反をしてしまったと理解できれば、遊び内のルールを維持するためにルールを共有していない他者に正しいルールを説明すると考えられる。「説明」ではなく「抗議」の反応が多かったのは、ルール違反をした他者がルールを共有していないということを参加児が理解していなかったためである可能性がある。ふりの背後にある他者の心的状態を理解できれば、他者がルールを共有していないということを理解して、「説明」の反応が多くなると予測できる。

以上より、ふりにおける他者の心的状態を理解できるようになる幼児期の社会的ふり遊びに場面におけるルール違反への反応を検証することはきわめて重要である。他者のルール違反に反応する際、ふりにおける他者の心的状態を理解する幼児は、他者の知識状態を考慮すると考えられる。本研究では、ふりにおける他者の心的状態を理解するとみられる5歳以降の幼児を対象に、社会的ふり遊び場面の他者のルール違反に対する反応を観察することで他者の知識状態を考慮したルール違反への反応を行うかを明らかにする。ここでは、ルールを共有していない他者が「ルール違反する条件」、「ルール違反しない条件」(Rakoczy, 2008; Wyman et al., 2009a, 2009b) に加え、ルールを共有している他者が「ルール違反する条件」も設けた。Rakoczy らの

一連の研究（Rakoczy, 2008; Wyman et al., 2009a, 2009b）では、共有されたルールへの違反に対して抗議や説明を行う反応のみが分析対象となっていた。しかし、他者との相互作用の中でルールが構築されるという社会的ふり遊びの特徴を踏まえれば、他者のルール違反によって共有されたルールが壊された場合、幼児が他者のルール違反に合わせてルールを変更することで、新たに共有されたルールを構築するという可能性も考えられる。そこで本研究では、「抗議する」、「説明する」というルールを維持するための反応だけでなく、参加児がルールを変える反応が生じうる文脈を設定した。具体的な文脈設定と仮説は以下のとおりである。

（仮説 1-1）5-6 歳児は、共有されたルールに違反するふりを行う他者に対して、その他者が事前にルールを共有していたか否かによって異なった反応を示す。事前にルールを共有していない他者（非共有者）のルール違反には、「抗議」、「説明」というルール維持反応を示す。事前にルールを共有した他者（共有者）のルール違反には、ルール維持反応は行わない。

（仮説 1-2）共有者がルールに違反するふりを行う条件では、参加児はルール変更を行う。他方、非共有者がルールに違反するふりを行う条件では、ルールの変更は行わない。

（仮説 1-3）ルールを共有していない他者によるルールに違反しないふりに対しては、参加児はルール維持のための抗議や説明、ルール変更を行わない。

実験 1

1. 方法

参加児 保育園に通う年中児 14 名、年長児 19 名の計 33 名が実験に参加した。この他に 4 名が実験に参加したが、課題を中断したため分析には含めなかった。参加児は、事前にルールを共有していない実験者が共有されたルールに違反しない条件群 11 名（男児 5 名、女児 6 名、平均：67.7 ヶ月、月齢範囲：60-76 ヶ月）、事前にルールを共有していない実験者が共有されたルールに違反するふりをする条件群 11 名（男児 5 名、女児 6 名、平均：67.7 ヶ月、月齢範囲：63-77 ヶ月）、事前にルールを共有した実験者が共有されたルールに違反するふりをする条件群 11 名（男児 5 名、女児 6 名、平均：69.5 ヶ月、月齢範囲：62-77 ヶ月）に無作為に分けられた。

材料および機器 教育用テレビ番組のキャラクターを模したパペット 2 体を使用した。ラポール形成のためのウォームアップ場面ではジグソーパズル（26cm × 37cm, 10 ピース）を、その後は積木（58001 BUILDING BLOCK, PINTOY）を使用した。ふり遊びの内容（花屋さん、服屋さん、本屋さん）を参加児が選ぶため、それぞれの絵カード（16cm × 23.5cm）を 1 枚ずつ、計 3 枚を使用した。実験中の参加児の行動は三脚で固定されたデジタルビデオカメラ 1 台（HDR-SR1, SONY）ですべて記録した。

手続き 実験の目的と方法の概要、個人情報守秘などの倫理的配慮を園の責任者に説明して同意を得た。その後、参加児の養育者に対し、同様の倫理的配慮に関するお願い書を、園を通じて配布し、同意を得た上で実験を行った。園の責任者との相談により、こうした同意方法をとることとした。

参加児と一緒にふり遊びをしてルールを共有する実験者（共有者）と、後から遊びに入る実験者（非共有者）の 2 人の実験者により実験が行われた。園内の静かな部屋で共有者、非共有者と参加児とのラポール形成後、実験を行った。共有者、非共有者はそれぞれ手にパペットを

つけ、実験終了までパペットとして振舞った。まず、ラポール形成のためのウォームアップに、ジグソーパズル遊びを行った。その際、非共有者と共有者はそれぞれ1回ずつジグソーパズルのピースの置き方を間違えてみせた。この操作を行うのは、参加児がルールに違反するふりに対し、何らかの指摘や抗議を行いやすくするためであった(Rakoczy, 2008)。非共有者と共有者のどちらが先に間違えるかは、参加児間でカウンターバランスをとった。非共有者(共有者)がジグソーパズルのピースを間違えて置いた際、参加児が間違いを指摘しない場合には、共有者(非共有者)が間違いを指摘した。ジグソーパズルが完成したところでウォームアップを終了した。

ウォームアップ終了後、「今度は積木遊びをしよう。」と共有者が参加児に積木を提示し、共有者、非共有者と参加児の3人で積木遊びを行った。この積木遊びの途中、非共有者は「電話に出るため」という理由で部屋の外に出た。その後、共有者は参加児と「お店屋さんごっこ」を始めた。この際、共有者は絵カードを呈示し「今回はお店屋さんをしよう。本屋さんと花屋さんと洋服屋さん、どれがいいかな。」と参加児に3種類の店の中から選ぶように促した。参加児の選択に従い、参加児が「お店屋さん」、共有者が「お客さん」役でお店屋さんごっこを行った。商品は全て積木によって見立てられた。「お店屋さんごっこ」の成立後、非共有者は部屋に戻り遊びに参加した。非共有者が部屋に戻ると、共有者は積木が何に見立てられているか、また、何のお店であるかといった事を口に出さずに参加児から商品を買うふりを行った。この後の手続きは条件ごとに異なった。なお、非共有者または共有者が共有されたルールに違反しないふり、または、ルールに違反するふりを行うフェーズをテストフェーズとした。

非共有者のみルールに違反しない条件(非共有者／違反なし条件) 共有者は部屋の離れた場所へと移動した。共有者が席を外している間に、非共有者は客役で商品を買ひ、非共有者はそれまでの「お店屋さんごっこ」のルールに違反しないふりを行った(テストフェーズ)。例えば、洋服屋さんごっこをしていた場合、「これかわいいな。私に似合うかしら。」と服を着るふりを行った。その後、共有者は席に戻り「何を売ってあげたの。」と参加児に質問した。

非共有者のみルールに違反する条件(非共有者／違反あり条件) 非共有者／違反なし条件同様、共有者は部屋の離れた場所へと移動した。共有者が席を外している間、非共有者は客役で商品を買ひ、さらに、買った商品を「もぐもぐ、おいしいな。」と食べるふりを行った(テストフェーズ)。その後、共有者は席に戻り「何を売ってあげたの。」と参加児に質問した。

共有者のみルールに違反する条件(共有者／違反あり条件) 共有者は席を離れず、非共有者が部屋の離れた場所へと移動した。非共有者が席を外している間に、共有者は客役で商品を買ひ、さらに、買った商品を「もぐもぐ、おいしいな。」と食べるふりを行った(テストフェーズ)。その後、非共有者は席に戻り「何を売ってあげたの。」と参加児に質問した。

評定項目および分析方法

記録されたビデオ映像の再生により、以下の2点を分析した。

(1) テストフェーズの反応 参加児が共有者あるいは非共有者に対してどのようにルールの共有を試みるか調べるため、テストフェーズにおける参加児の自発的な反応を分析した。テストフェーズの参加児の反応は、大きく「ルール維持」と「ルール変更」の2つのカテゴリーに分けられた。さらに、ルール維持反応は「抗議」、「説明」の2つのサブカテゴリーに分類した。

「抗議」は実験者の食べるふり自体に抗議する言語反応で、例えば「食べちゃダメだよ。」という反応が含まれた。「説明」は積木が本来何に見立てられているかを伝える言語反応で、例えば「それはチューリップ。」という反応が含まれた。他方、ルール変更反応には、それまで花に見立てられていたものを「それは望遠鏡です。」と言うなど他のものへ変える反応が含まれた。以上のように、テストフェーズの反応はルール維持反応 2 つ、ルール変更反応 1 つ、計 3 つのサブカテゴリーにいずれか 1 つに分類された。いずれの反応も見られない場合は「反応なし」とした。

(2) 質問への回答 参加児がルールを維持しようとしたか変更しようとしたかを明らかにするため、「何売ってあげたの」という質問への回答を分析した。質問への回答は、共有されていたルールを維持した「ルール維持回答」（花屋さんの場合であれば、「お花。」といった回答）と「ルール変更回答」の 2 つに分けられた。回答が得られなかった場合には「反応なし」とした。

データ評定の信頼性の検討を、無作為に抽出した対象児 9 名（25%）分のデータについて行った。ビデオ記録を再生し、(1) テストフェーズの参加児の反応の分類、および、(2) 質問に対する回答の分類の 2 項目について、本研究の目的や内容を知らされていない大学院生 1 名が評定した。2 項目ともに著者と高い一致率（それぞれ、 $\kappa=.88$; $\kappa=1.0$ ）が得られたため、全ての参加児のデータについて著者の評定値を用いた。統計分析には SPSSver.19 を用い、統計検定の際の有意水準はすべて有意確率 $p < .05$ に設定し、両側検定で行った。

2. 結果

テストフェーズの反応 参加児の反応は、3 つのサブカテゴリーにもとづき分類された。（Table 1）。参加児の反応の分布差を見るために条件（3）× 反応（3）の Fisher の正確確率検定を行ったところ、条件間で有意な分布差が見られた（ $p < .01$, Cramer's $V = .53$ ）。残差分析をおこなったところ、ルール維持反応については非共有者／違反あり条件で他の 2 条件より有意に多かった（ $p < .01$ ）。反応なしについては、非共有者／違反なし条件で他の 2 条件よりも有意に多く（ $p < .05$ ）、非共有者／違反あり条件で他の 2 条件よりも有意に少なかった（ $p < .01$ ）。非共有者／違反あり条件でルール維持反応を示したのは 9 人で、そのうち「抗議」は 2 人、「説明」は 7 人であった。変更を行ったのは全条件を合わせてもわずか 1 人だけであり、条件間で有意差は見られなかった。テストフェーズでの参加児の反応の性別、年齢による分布差を検討するため、性別（2）× 反応（3）と年中・年長（2）× 反応（3）の Fisher の正確確率検定を行った。性別（ $p = .60, n.s.$ ）、年齢（ $p = .84, n.s.$ ）とも有意な分布差は見られなかった。

Table 1 テストフェーズにおいて各反応を示した参加児の条件別の人数

	ルール維持	ルール変更	反応なし
非共有者／違反なし条件 ($n = 11$)	1 (-2.3)*	0 (-.7)	10 (2.5)*
非共有者／違反あり条件 ($n = 11$)	9 (3.8)**	1 (1.4)	1 (-4.3)**
共有者／違反あり条件 ($n = 11$)	2 (-1.8)	0 (-.7)	9 (1.5)

注. () 内は調整済み標準化残差。 * $p < .05$, ** $p < .01$

質問に対する回答 質問への参加児の回答は「ルール維持」および「ルール変更」の2つの反応カテゴリーに分類された。ルール維持回答は非共有者／違反なし条件で9名(81.8%)，非共有者／違反あり条件で10名(90.9%)，共有者／違反あり条件で10名(90.9%)だった。ルール変更回答は，非共有者／違反なし条件で1名に見られたのみだった。質問への回答の分布差を見るため，条件(3)×回答(2)のFisherの正確確率検定を行ったが，有意な分布差は見られなかった($p=1.0, n.s.$)。

3. 考察

テストフェーズの参加児の反応については，有意な分布差が見られた。ルール維持反応は，非共有者／違反あり条件で多く見られた。この結果は，Rakoczy(2008)の3歳児の結果とも一致する。ただし，Rakoczy(2008)では3歳児の多くが抗議の反応をしていたのに対し，本研究では説明の反応を示した参加児が多かった。本研究は，ふりにおける他者の心的状態を理解しはじめるとみられる5-6歳児を対象とした。そのため，参加児は非共有者がルールを知らないためにルール違反を犯したことを理解し，正しいルールを説明することでルールを共有しようとしたと考えられる。一方，共有者／違反あり条件では，ルール維持反応は見られなかった。重要な点は，非共有者／違反あり条件と共有者／違反あり条件は他者が共有されたルールに違反するという点においては同じであるにも関わらず，反応が大きく異なった点である。非共有者／違反あり条件では抗議や説明が多く見られたのに対し，共有者／違反あり条件ではそれらの反応は見られず，「反応なし」に分類される児が多かった。これらの結果は，5-6歳児は，ルールに違反した他者に対する反応を，他者が事前にルールを共有していたか否かを考慮して変えるという説(仮説1-1)を支持するものであった。

非共有者／違反なし条件では非共有者への抗議や説明はあまり見られず，ルール変更も見られなかった。ルールに違反しないふりに対して，参加児はルール維持反応もルール変更反応も行わないという説(仮説1-3)は支持された。

質問に対する回答には有意な分布差はみられず，どの条件においてもルールを維持する回答がほとんどであった。非共有者／違反あり条件，共有者／違反あり条件のどちらでもルール変更がほとんど見られなかったため，共有者がルールに違反するふりを行った場合，参加児はルールの変更を行うという説(仮説1-2)は支持されなかった。ただし，共有者／違反あり条件においては，テストフェーズにおけるルール維持反応が見られていないため，参加児が共有者のルール違反をどのようにとらえていたか，具体的にとらえることはできなかった。その理由として，共有者／違反あり条件が自然場面ではほとんど起こり得ない場面設定になっていたことなどが考えられる。社会的ふり遊びにおいてルールを変えたり，新たなルールを構築したりしようとする場合には，ルールについて話し合う行動をとるのが自然である。ルールを共有し合った遊び相手が急にルール違反をするという行為は自然場面ではあまり起こらないため，参加児が戸惑い明確な反応をとれなかった可能性がある。5-6歳の幼児がルールを共有している他者のルール違反をどのように理解しているかを明らかにするためには，より自然遊び場面に近い条件を設定することが必要である。そこで実験2では，非共有者によるルール違反に続いて共有者が非共有者に同調してルール違反を行うという，より自然場面に近い条件を設け，非

共有者のみがルール違反を行う条件と比較することにより、共有者のルール違反が参加児の反応に与える影響を検証した。

実験 2

具体的な文脈設定と仮説は以下のとおりである。(仮説 2-1) 事前にルールを共有していない他者のみが、別の他者と参加児との間で共有されたルールに違反する条件では、参加児はルールを変更しない。(仮説 2-2) ルールを共有していない他者に加え、それまでルールを共有していた別の他者もルールに違反するふりをする条件では、参加児は他者のふりに応じてルールを変更する。

1. 方法

参加児 保育園に通う年中児 18 名、年長児 20 名の計 38 名（男児 21 名、女児 17 名、平均：67.9 か月、月齢範囲：55-78 ヶ月）が参加した。この他に 12 名が実験に参加したが、課題を中断したり（6 名）、手続きにミスがあったり（5 名）、記録映像に不備があったり（1 名）したため分析には含めなかった。参加児は、それまでルールを共有していない他者が、ルールに違反するふりをする条件群 19 名（男児 10 名、女児 9 名、平均：68.2 ヶ月、月齢範囲：55 - 78 ヶ月）と、ルールを共有していない他者に続き、それまでルールを共有していた他者もルールに違反するふりをする条件群 19 名（男児 11 名、女児 8 名、平均：67.6 ヶ月、月齢範囲：55-77 ヶ月）の 2 群に無作為に分けられた。

材料および機器 教育用テレビ番組のキャラクターを模したパペット 1 体を使用した。ウォームアップ場面ではジグソーパズル (26cm × 37cm, 10 ピース) を使用し、その後は、積木 (58001 BUILDING BLOCK, PINTOY) を使用した。実験中の参加児の行動はすべて三脚により固定されたデジタルビデオカメラ 1 台 (HDR-SR1, SONY) によりすべて記録された。

手続き 実験 1 と同様の方法で、園の責任者および参加児の養育者の同意を得た上で実験を行った。共有者と非共有者の 2 人の実験者により、実験が行われた。実験中、非共有者は常にパペットをつけパペットのキャラクターとして振る舞った。実験 1 と同様にラポール形成のためのウォームアップとしてジグソーパズルを行った。

ウォームアップ終了後は以下の点を除き、実験 1 と同様の手続きを実施した。お店屋さんごっこを行う際、自然遊び場面に近い状態にするため、参加児は選択肢の中からどのお店屋さんを行うか選ぶのではなく好きな種類のお店屋さんごっこを行った。ただし、食べ物以外の店になるよう共有者が誘導した。非共有者 1 人または共有者と非共有者の 2 人がルール違反をするフェーズをテストフェーズとした。テストフェーズ中、非共有者が共有されたルールに違反するフェーズを「非共有者フェーズ」、共有者がルールに違反するフェーズを「共有者フェーズ」とした。非共有者だけがルール違反をする条件は非共有者フェーズのみ、非共有者に加え共有者もルール違反をする条件では、非共有者フェーズの後に共有者フェーズを設けた。

ルールを共有していない他者が、共有されたルールに違反するふりをする条件（非共有者のみ違反条件） 共有者は、一度商品を買うふりを行い、その後、席を外し部屋の離れた位置に移動した。共有者が参加児から商品を買うふりを見た非共有者は、自分も商品を売ってほしいということを参加児に伝え買うふりを行った。さらに、「これおいしそうだな。食べてみようか

な。もぐもぐ、おいしいなあ。」と買った商品を食べるふりを行った（非共有者フェーズ）。

ルールを共有していない他者に加え、それまでルールを共有していた他者もルールと異なるふりをする条件（非共有者に続き共有者も違反条件） 非共有者のみ違反条件同様、非共有者は参加児から買った商品を食べるふりを行った（非共有者フェーズ）。この間、共有者は席を外すことなく非共有者のふりを観察し「こっちもおいしそうだな。食べてみようかな。もぐもぐ。おいしい。」と食べるふりを行った（共有者フェーズ）。

両条件において、テストフェーズの後、共有者は「何を売ってあげたの。」と参加児に質問した。ただし、共有者が質問する前に参加児が非共有者の買った積み木の見立てを報告していた場合には質問を行わなかった。

評定項目および分析方法

記録されたビデオ映像の再生により、以下の2点を分析した。

(1) テストフェーズの反応 テストフェーズの参加児の反応は、実験1同様「ルール維持」と「ルール変更」の2つのカテゴリーに分類された。ルール維持反応は実験1と同じく、さらに2つのサブカテゴリーに分類された。ルール変更反応は、「食べ物への変更」、「一部変更」、「変更のふり」の3つのサブカテゴリーに分類された。「食べ物への変更」は、「それはお菓子です。」などのように実験者のふりに合わせてブロックの見立てを食べ物に変更する言語反応が含まれた。「一部変更」はそれまで共有者と共有したルールとも矛盾せず、かつ、食べるふりというルール違反にも対応するもので、例えば、車に見立てられたものを「車だけのお菓子でできている。」という反応があった。また、言語的な反応でなく参加児自ら食べるふりを行った場合は「変更のふり」とした。いずれの反応も見られない場合は「反応なし」とした。非共有者に続き共有者も違反条件では、非共有者フェーズと共有者フェーズのそれぞれにおいて、参加児の反応は上記のカテゴリーのいずれかに分類した。

(2) 質問への回答 参加児の回答は、実験1と同様「ルール維持回答」と「ルール変更回答」に大きく分類された。「ルール変更回答」には「それはお菓子です。」などのように実験者のふりに合わせてブロックの見立てを食べ物に変更する「食べ物への変更」、それまでのルールを維持しつつ、食べるふりにも合う「一部変更」（「お菓子でできたお花です。」といった回答）の2つのサブカテゴリーを設けた。回答が得られなかった場合は「回答なし」とした。

(1) テストフェーズの参加児の反応、および(2) 質問に対する回答の分類の2項目について、本研究の目的や内容を知らされていない大学院生1名が評定し、データの信頼性の検討を行った。その結果、2項目ともに著者と高い一致率（それぞれ、 $\kappa = 1.0$; $\kappa = .89$ ）が得られたため、全ての参加児のデータについて著者の評定値を用いた。統計分析にはSPSSver.19を用い、統計検定の際の有意水準はすべて有意確率 $p < .05$ に設定し、両側検定で行った。

2. 結果

テストフェーズの反応 ルール維持反応を示した参加児は、両条件とも6名（31.6%）であった。非共有者のみ違反条件では「抗議」が2名、「説明」が4名、非共有者に続き共有者も違反条件では「抗議」と「説明」がそれぞれ3名ずつであった。ルール変更反応を示した参加児は非共有者のみ違反条件で3名、非共有者に続き共有者も違反条件で1名であった。非共有者

フェーズにおける参加児の反応を、ルール維持反応、ルール変更反応、反応なしの3つに分類し条件(2)×反応(3)の χ^2 検定を行ったところ、有意な分布差は見られなかった($\chi^2(2, N=38)=0.37, n.s.$)。非共有者に続き共有者も違反条件の共有者フェーズでは、ルール維持反応が2名、ルール変更反応が2名に見られた。

質問への回答 非共有者のみ違反条件13名、非共有者に続き共有者も違反条件14名から回答が得られた。「ルール維持」「ルール変更」の回答を行った参加児の数の条件間の差を調べるため、回答を得られた児について条件(2)×回答(2)のFisherの正確確率検定を行ったところ、条件間で有意な分布差が見られた($p<.05$, Cramer's $V=.43$)。ルール維持回答は非共有者のみ違反条件(11名)で非共有者に続き共有者も違反条件(6名)よりも多かった。ルール変更回答は、非共有者のみ違反条件(2名)より非共有者に続き共有者も違反条件(8名)において多かった。

質問に無回答であった参加児も含め、テストフェーズでの反応と質問への回答からルールを維持した児、ルールを変更した児、どちらの反応もなかった児の3カテゴリーに分類した。具体的には以下の基準で分類した。テストフェーズでルール維持反応を示した参加児、およびテストフェーズの反応に関わらず質問に対してルール維持回答をした参加児を「ルール維持児」とした。テストフェーズにおいてルール変更反応を示した、または、質問に対してルール変更回答をした参加児を「ルール変更児」とした。テストフェーズで反応がなく、かつ、質問に対する回答が得られなかった参加児は「反応なし児」とした(Table 2)。各カテゴリーの参加児の割合の条件間での違いを検討するため、条件(2)×カテゴリー(3)の χ^2 検定を行ったところ、条件間で有意な分布差が見られた($\chi^2(2, N=38)=11.53, p<.01$, Cramer's $V=.55$)。残差分析を行ったところ、ルール変更児は非共有者のみ違反条件よりも非共有者に続き共有者も違反条件で有意に多く($p<.01$)、反応なし児は非共有者に続き共有者も違反条件よりも非共有者のみ違反条件において有意に多かった($p<.01$)。ルール維持児の人数については条件間で有意差は見られなかった。ルール変更児の割合について、性別、年齢による分布差を検討するため、性別(2)×変更あり・なし(2)および、年中・年長(2)×変更あり・なし(2)の χ^2 検定を行ったが、性別($\chi^2(1, N=38)=.005, n.s.$)、年齢($\chi^2(1, N=38)=.89, n.s.$)とも有意な分布差は見られなかった。

Table 2 条件別のルール維持・ルール変更児数

	ルール維持	ルール変更	反応なし
非共有者のみ違反 ($n=19$)	11 (.6)	2 (-2.8)**	6 (2.7)**
非共有者に続き共有者も違反 ($n=19$)	10 (-.6)	9 (2.8)**	0 (-2.7)**

注。()内は調整済み標準化残差。 ** $p<.01$

3. 考察

テストフェーズと質問への回答からルール維持児、ルール変更児、反応なし児に分類したところ、両条件合わせて 38 名中 11 名（約 29%）が、ルール変更児に分類された。このことは、この時期の幼児がふり遊びの中で一度決めたルールに固執するのではなく、遊び相手との間で社会的文脈に応じて柔軟にルールを変えることで、ルールの共有状態を作っていることを示唆する。

ルール変更児の割合には、有意な分布差が見られた。非共有者のみ違反条件ではルール変更はほとんど見られなかったのに対し、非共有者に続き共有者も違反条件では半数近くがルール変更を行った点は注目すべきである。ルールを共有していない他者のふりに応じたルール変更は見られないが、ルールを共有していた他者も共有されたルールに違反するふりを行った場合にはルールを変更するという本研究の仮説 2-1 および 2-2 は支持された。これらの結果から、幼児はルールに違反した他者と事前にルールを共有していたかという社会的文脈に応じて反応を変える可能性が示された。非共有者がルールに違反するふりをした場合、参加児はルールを知らないための誤りと判断し、ルール維持反応を示したのではないかと考えられる。他方、共有者がルールに違反した場合、共有者の違反に合わせて参加児がルールを変更することでルールの共有状態を作ったのかもしれない。

総合的考察

本研究は、幼児が社会的ふり遊びにおいて社会的文脈に応じて他者とどのようにルールを共有するかを検証した。実験 1 では、5-6 歳の幼児が社会的文脈に応じたルール違反への対応を行うことが示され、実験 2 では 4 歳半-6 歳の幼児が社会的文脈に応じてルールを変更することが示された。実験 1 において、ルールに違反する他者がそのルールを事前に参加児と共有していなかった場合には多くの参加児がルール維持を行ったが、事前にルールを共有していた場合にはルール維持はほとんど見られなかった。この結果は、5-6 歳児がルールを共有している他者と共有していない他者とを区別し、それに依拠してルール違反に対する反応を変えることを意味する。より自然場面に近い条件設定による検証（実験 2）の結果、ルールを共有していなかった他者だけがルールに違反する場合よりも、共有していた他者もルールに違反した場合にルールを変更する幼児が多かった。本研究の結果は、この時期の幼児が社会的ふり遊び場面において他者の知識状態を考慮して柔軟にルールを維持したり変更したりしていることを示唆している。

Rakoczy らによる一連の研究（Rakoczy, 2008; Wyman et al., 2009a, 2009b）では、ルールを維持する反応にのみ焦点があてられ、他者との相互作用を通して幼児がどのようにルールを再構築していくかについては検討されていない。本研究は、幼児が単に社会的ふり遊びにおけるルールに従うだけでなく、他者と事前にルールを共有していたか否かを考慮して、ときにルールを変えることでルールの共有状態を作ること示した。ヒトは定められたルールに従うだけでなく、ルールを作り、変更し、文脈に応じてルールを使い分けることができ、この能力はヒトが社会を構成する上で極めて重要であると考えられる。本研究は、こうした柔軟なルール使用を、幼児が社会的ふり遊び場面において他者との相互作用を通して学習していく可能性を示唆

するものである。

社会的ふり遊びは、文脈に応じたルール使用という観点では重要な意味を持つ。なぜなら、社会的ふり遊びのルールは、他のゲーム形式の遊びや日常生活のルールと異なり、あらかじめ決められていないからである。そのため、社会的ふり遊びでは遊び相手との間でルールを構築していかなければならない。社会的ふり遊びでは、他者とルールを共有できているか判断し、そうした社会的文脈に応じて対応を変えていくことが重要である。Wang, Zhi and Shi (2011)は、日常生活場面のルールについて、誤信念理解と道徳的評価の関係を調べた。正しいルールを知っている子ども、または、ルールができたときに欠席していたために知らない子どもがルール違反をするストーリーを聞かせ、その子どもがルールを知っていたかどうかを尋ねる誤信念理解の質問と、その子どものルール違反に対してどの程度罰を与えるべきかという道徳的評価の質問を行った。その結果、5歳児は他者がルールを知っているかどうかを理解できるが、道徳的判断にはその情報をあまり用いないことが示された。一方、本研究は社会的ふり遊び場面において、5歳児がルールを共有した相手か否かによってルール違反への反応を変えていることを明らかにした。Wangらの研究と本研究の結果から、ルールを共有した他者、共有していない他者のルール違反への5歳児の反応は、日常生活場面と社会的ふり遊び場面で異なると考えられる。社会的ふり遊びには、遊びの参加者同士でルールを自由に作ったり、変更したりできるという特徴があるため、柔軟なルール使用が早く発達するという可能性も考えられる。

本研究の今後の課題は以下の通りである。実験2において設定した非共有者に続き共有者も違反条件では、2人の実験者がともに共有されたルールと異なるふりを行ったため、ルール変更にはルールが共有されていたか否かよりも、ルールに違反するふりをした人数の影響した可能性があった。社会的ふり遊びの中で幼児がルール変更しやすいのは、自分以外の複数の他者間でルールが共有されている場合かもしれない。今後、より詳細な検証が必要である。

本研究は、4歳半以降の幼児が、社会的ふり遊び場面で社会的文脈に応じてルール違反に対する反応を変え、ときにルール自体を変更することでルールの共有状態を作るという柔軟なルール使用を行うことを明らかにした。本研究で明らかになった柔軟なルール使用が、ふり遊び以外の場面ではいつ頃みられるのだろうか。幼児が柔軟なルール使用を行うかは場面によって異なり、社会的ふり遊びにおいては他の場面より早期から柔軟なルール使用を行い始めている可能性がある。ふり遊びとそれ以外の場面での幼児のルール使用の違いを明らかにすることで、社会的ふり遊びがルール使用の柔軟な面の発達に果たしている役割をより明確に示すことも今後の課題の一つである。

謝辞

本研究に御協力頂きました保育園の先生方、並びに園児とその保護者の皆様に心よりお礼申し上げます。また、本論文の執筆にあたり丁寧なご指導をくださいました京都大学教育学研究科の明和政子先生、実験の補助をしてくださった学生の皆様に心より感謝いたします。

引用文献

Casler, K., Terziyan, T., & Greene, K. (2009). Toddlers view artifact function normatively. *Cognitive Development*,

24, 240-247.

- Howes, C. (1985). Sharing fantasy: Social pretend play in toddlers. *Child Development*, **45**, 1253-1258.
- Howe, N., Petrakos, H., Rinaldi, M. C., & LeFebvre, R. (2005). "This is a bad dog, you know. . .": Constructing shared meanings during sibling pretend play. *Child Development*, **76**, 783-794.
- Lillard, S. A. (1993). Pretend play skills and the child's theory of mind. *Child Development*, **64**, 348-371.
- Lillard, A., Ashley, M. P., & Smith, E. (2010). Pretend play and cognitive development. In U. Goswami, (Ed.), *The Wiley-Blackwell Handbook of Childhood Cognitive Development* (pp. 285-311). Malden, USA: Wiley-Blackwell.
- Rakoczy, H. (2008). Taking fiction seriously: Young children understand the normative structure of joint pretense games. *Developmental Psychology*, **44**, 1195-1201.
- Rakoczy, H., Brosche, N., Warneken, F., & Tomasello, M. (2009). Young children's understanding of the context-relativity of normative rules in conventional games. *British Journal of Developmental Psychology*, **27**, 445-456.
- Rakoczy, H., Warneken, F., & Tomasello, M. (2008). The source of normativity: Young children's awareness of the normative structure of games. *Developmental Psychology*, **44**, 875-881.
- 杉本直子. (2008). 幼児のふりにおける対象の知識と行為との関係の理解. *発達心理学研究*, **19**, 221-231.
- Wang, F., Zhu, L., & Shi, K. (2011). How do children coordinate information about mental states with social norms? *Cognitive development*, **26**, 72-81.
- Wyman, E., Rakoczy, H., & Tomasello, M. (2009a). Normativity and context in young children's pretend play. *Cognitive Development*, **24**, 146-155.
- Wyman, E., Rakoczy, H., & Tomasello, M. (2009b). Young children understand multiple pretend identities in their object play. *British Journal of Developmental Psychology*, **27**, 385-404.

(教育方法学講座 博士後期課程 2 回生)

(受稿 2014 年 9 月 1 日、改稿 2014 年 11 月 20 日、受理 2014 年 12 月 26 日)

幼児期における他者の知識状態に応じたルール違反への反応と ルールの共有

－社会的ふり遊びの観察から－

熊木 悠人

本研究は、社会的ふり遊び場面に焦点をあて、幼児がどのように他者とルールを共有するか検証した。実験 1 では、a) ルールを共有していない他者（非共有者）がルール違反しない場合、b) 非共有者のみがルール違反した場合、c) ルールを共有した他者（共有者）のみがルール違反した場合の 5-6 歳児の反応を観察した。その結果、b) の場合でのみ、非共有者に抗議するなどしてルールを維持しようとする反応が多かった。実験 2 では、d) 非共有者のみがルール違反する場合、e) 非共有者に加えて共有者もルール違反する場合で 4 歳半-6 歳児の反応を観察した。その結果、e) の場合でのみ多くの参加児が他者のルール違反に合わせてルールを変更した。これらの結果から、社会的ふり遊び場面において、4 歳半以降の幼児は他者の知識状態に応じて、ルールを維持あるいは変更することでルールの共有状態を作っていることが示された。

Young Children's Responses to Violations of Rules and Rule Sharing Depending on Other's Knowledge: Observation of Social Pretend Play

KUMAKI Yuto

This study investigated how young children share rules with others during social pretend play. Thirty three children aged 5-6 participated in Experiment 1. Children's responses to rule appropriate pretense by E1 (who did not share the rule with participants), rule violating pretense by E1, and rule violating pretense by E2 (who shared the rule with participants) were recorded. During the experiment, most children protested when E1 violated the rule and few children changed the rule in any case. In Experiment 2, 38 children's responses to E1 violating the rule, and both E1 and E2 violating the rule were recorded. When only E1 violated the rule, most children did not change the rule. However, when both E1 and E2 violated the rule, half of the children changed the rule. These results suggest that young children share rules with others by using rules flexibly according to the context in social pretend play.

キーワード： 幼児、社会的ふり遊び、ルール使用

Keywords: Young children, Social pretend play, Rule use

